

里親支援と 子ども自立

日本ファミリーホーム協議会会長／
札幌市里親会会長 北川聡子

里親を始めたきっかけ

- 札幌にあるむぎのこ児童発達支援センターに通園している子ども
- お母さんがすすきののホテルに子どもを連れて行ったりしていた家庭子どもが一時保護になり、急に目の前から消えた。
- 周りのお母さんも同級生もびっくりしてしまった。
- そして遠くの施設に行くということであった。
- どうして！とたのみこんで一時保護所に会いに行った。
- 帰り際、子ども達みんなも号泣して別れてた。

- こんな悲しい事—お母さんに支援がないのに。
- 帰ろうとしたら呼び止められて
- 「あなたが里親になって子どもを地域に戻してあげたらいい」
- 「里親になりましょう。」と児相の係長さん

3人の子どもを育てる

- その子たちは18歳まで施設でお世話になって、今お姉ちゃんむぎのこで働きます。
- 3歳のSちゃんとの出会い。連れて来たのは若き日の今の児相の課長さん。お母さんが重い鬱で、子育てが大変で言葉が遅いという主訴。
- 帰園時間になると、電話がかかってきて「夕食をお願いします。」しばらくすると「泊めてもらえませんか」
- Sちゃんは、職員の家を転々としたため、これでは安定した暮らしができないと思い、根本的に暮らしを立て直すためにお母さん入院治療を進めました。反対はあったものの毎日Sちゃんが面会に行けるという条件でやっと承諾してくれました。

4人の子どもを育てる

- いよいよ 里親生活が始まりました。
- これまで3人の子どもを保育園で育てたように、その延長線上でSちゃんを児童発達支援センターにつ入れて行って夕方帰るという日々。
- 次に来た自閉症スペクトラムのKちゃん
- そして赤ちゃんからからYちゃん
- 高校生になってから来たYちゃんのお姉ちゃん

里親になるにあたって心に決めたこと

- 子どもの前では、専門家にはならない
- 青山学院大学 庄司先生との出会い「こんな家帰りたくない」という里子のエピソードを聞く
- 大学院で出会った友人ー「養子縁組里親さんのところで幸せに育てられたの。」「だから辛かったの」
- 「子どもがリラックスして、「こんな里親！」と子どもが「ノー」と言える立派じゃない里親になる

医療型児童発達支援センター

児童発達支援センター
困り感の高い幼児期の
子どもと家族のための
子育て支援センター



福祉型児童発達支援センター



思春期の支援—放課後等デイサービスの活動

☆成し遂げるよろこび
☆友達・大人に褒めて
もらうよろこび



親離れへの挑戦
—大人になるにあたって
の大切なことは、友達・
仲間の存在

☆孤立をふせぐ
☆仲間の存在
☆グループ活動



-乳幼児期の発達支援-

すべての子どもに
必要な事

- ・ 乳幼児期は、養育者との愛着関係の形成が大切
- ・ 障がいのある子どもも同じ
 - 安心感信頼感の基礎 —生の土台—
- ・ 愛着形成に課題のある子どもも
- ・ 基本的な信頼感
 - 大人はいいことやってくれる人—
 - 生理的・感情的に一致—
- ・ 医療との連携は必要であるが、子育ての支援

アメリカの里親支援との出会い

- 大学院に通いながら里親を。
- アメリカでの学びー里親支援機関ー里親へのセラピー、子どもへのセラピー、関係性への支援が 定期的になされていた。
- また障害のある里親さんや、LGBTの里親さんへの支援もあった。
- 「いつか日本にもこんな仕組みができれば」
- シカゴの里親支援機関アタッチメントにセラピーを受けるために子どもを連れて行ったこともあった。

むぎのこに里子がたくさんやってきた

- 最初は、むぎのこに通園する家族の子どもだったけれど
- 児童相談所からの紹介の里子が増え来た。
- コーディネート役の古家先生が、児相と相談しながら里親さんとマッチング
- →今はむぎのこの元児相の職員が、子ども家庭ソーシャルワーカーとして働いてくれています。
- 里親さんの代弁者としても、活躍してくれています。

児相との葛藤・意見の言える里親

- 20年という間に、里親は、大きく変わった。
- 里親の立場な弱いものであった。意見を言うと子どもが委託されないことがほとんど常識的に考えられていたし、事実でもあった。
- 施設養護中心の時代は里親は社会的養護においても、必要だけれど、必要とされない部分があった。
- 実際エピソードー特別養子縁組になぜならない？
- 里親は「お金のため？」「お金もらっているんでしょう。」
- 里親制度は本当の意味で子どものための制度と位置付けられたのは、社会的養育ビジョン以降？

里親会について

- 20年前の里親会
- 働いている里親は、入れない雰囲気があった。
- 里親会の意義を感じて 少しずつ、参加しいった。

社会的養護の必要な子の支援

- 里親ファミリーホーム（4軒） 定員6名×4 = 24名
- 里親21名、子ども48名
- 乳幼児～専門学校生まで：ほとんどが発達に
心配のある子ども
- 被虐待児 ・ 知的障害児 ・ 自閉症児 ・ 発達障害児
摂食障害 ・ 愛着障害 ・ 施設で不適應の子ども等
- 地域住んでいるいろいろな困り感のある子どもと家族と共に



ファミリーホームを創った理由

- むぎのこの基盤が、障害児支援なので、障害のある子どもが委託されることがほとんどであったため、重度の自閉症の子どもを育てている里親家庭を見て、里父・里母だけでは大変。そこで、補助者のいるファミリーホームを創って、子どもの養育が少しでも手厚くなるように考えた。
- 現在、法人として6人の子どもが住むファミリーホームが現在4つあります。
- **【課題】**ファミリーホームは、措置費が常勤1、非常勤2で、6人の子どもを見ながら事務運営もするという課題がある。
- 4人の子どもがいのではないか。

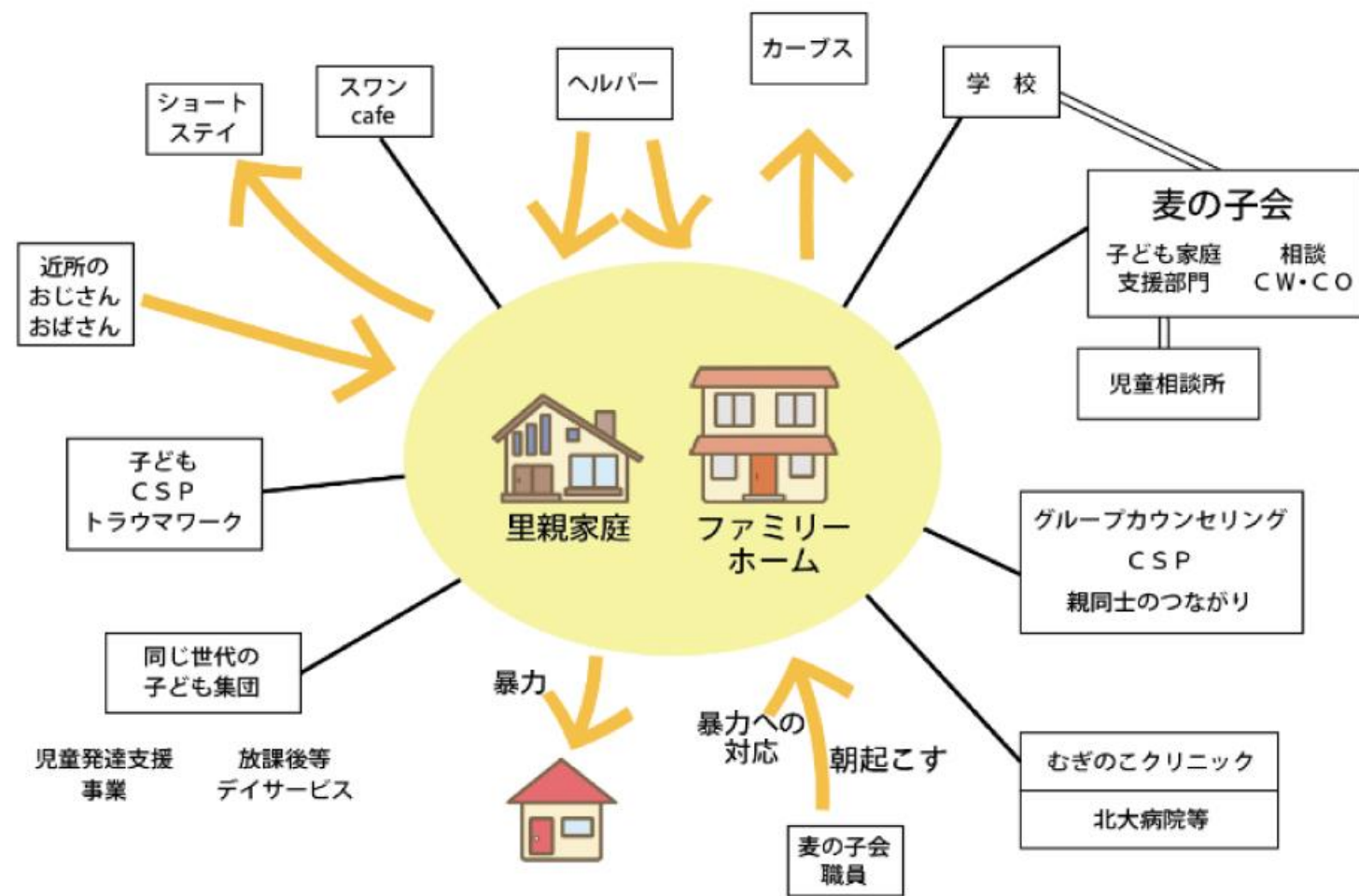
ケアニーズの高い子どもたち

- 児童相談所から子どもたちの委託が増えてきた、そしてケアニーズの高い子どもの委託も増えてきた。
- 暴力や暴言などが、多い日々の中で
- 少しずつ変化していったが、

里親をやめたい

- ある男の子がフロントガラスを割り
- 里父の肋骨が3本折れてしまった。
- → 「もう里親は続けられない」
- 里子を他の職員があずかった。里親さんがレスパイトして、心身共に休める場所と時間が必要だった。
- もう一度受け入れる決心をしてくれた。
- 里子と里親との約束を、職員も入って取り交わした。

里親さん ファミリーホーム への支援



24時間緊急携帯

育児の

大変さを支える



相談/家に行く

Muginoko E Rの必要性

- 暴力が出たり、大変な状況になったむぎのこの職員が駆け付ける
- 子どもと、里親、の話を聴く
- 壊れたものをかたずける
- 失踪した時は、50人体制で探す。

地域で支えるおばさん達とのお誕生会



障害のある子どもと里親さん



心理・相談支援の必要性

グループカウンセリング

個別カウンセリング

トラウマワーク

カップルカウンセリング

お母さんピアカウンセリング

ペアレントトレーニング



【生活支援】ホームヘルパー（アウトリーチ）



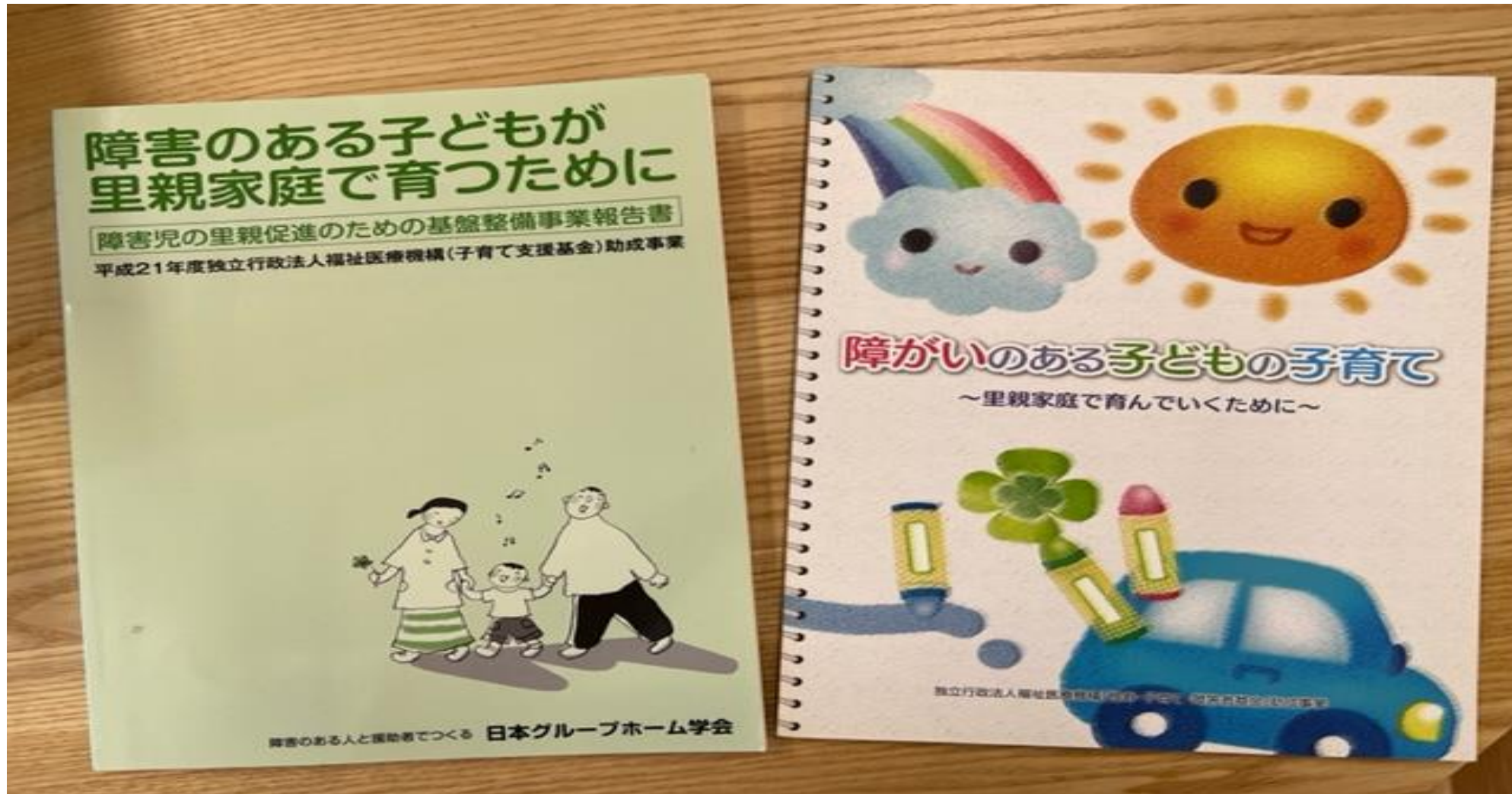
【生活支援】ショートステイホーム




ショートステイホームむぎのこ 一時保護委託

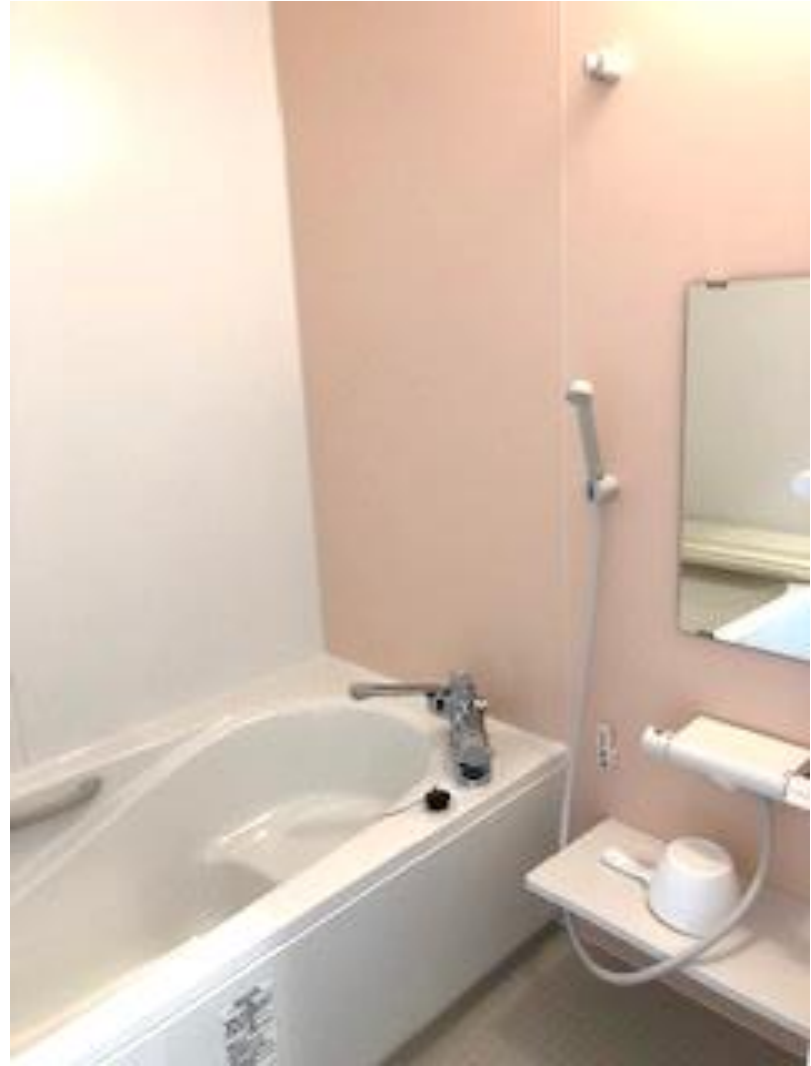


障害のある子どもも里親家庭でプロジェクト



にんしんSOSさっぽろ

- 法人として社会的養護の子ども達を20年余り養育する中で、妊娠期からの支援の大切さ
- 発達が気になる子どものお母さんたちへのグループカウンセリングを通しての妊娠・出産の悩みから
- 
- 0才の虐待死が一番多いという状況で、日本財団さんから北海道には24時間の相談窓口がまだないとのことを聞き、これまでの子どもと家族を支援する延長線としてにんしんSOSを立ち上げることにいたしました。



にんしんSOS札幌



むぎのこが行ってきた取り組み

子育て支援

子育て一般の問題
母子関係
健康

在宅支援の充実

家庭からのSOS

【子ども】

障害のある子ども(発達障害児や医療的ケア児等)
社会的養護必要な子ども

【家庭】

病気 障害 シングルペアレント
被虐待 虐待 D V 親子再統合等

社会的養護

地域での家庭養育
里親・ファミリーホーム



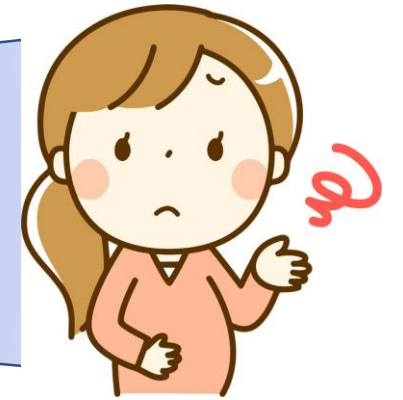
子ども支援・家庭支援・心理支援・S W・生活支援・里親支援



地域で保護者を支え、子どもを育むために

障害のある子どもの家族・里親家庭～濃い家族

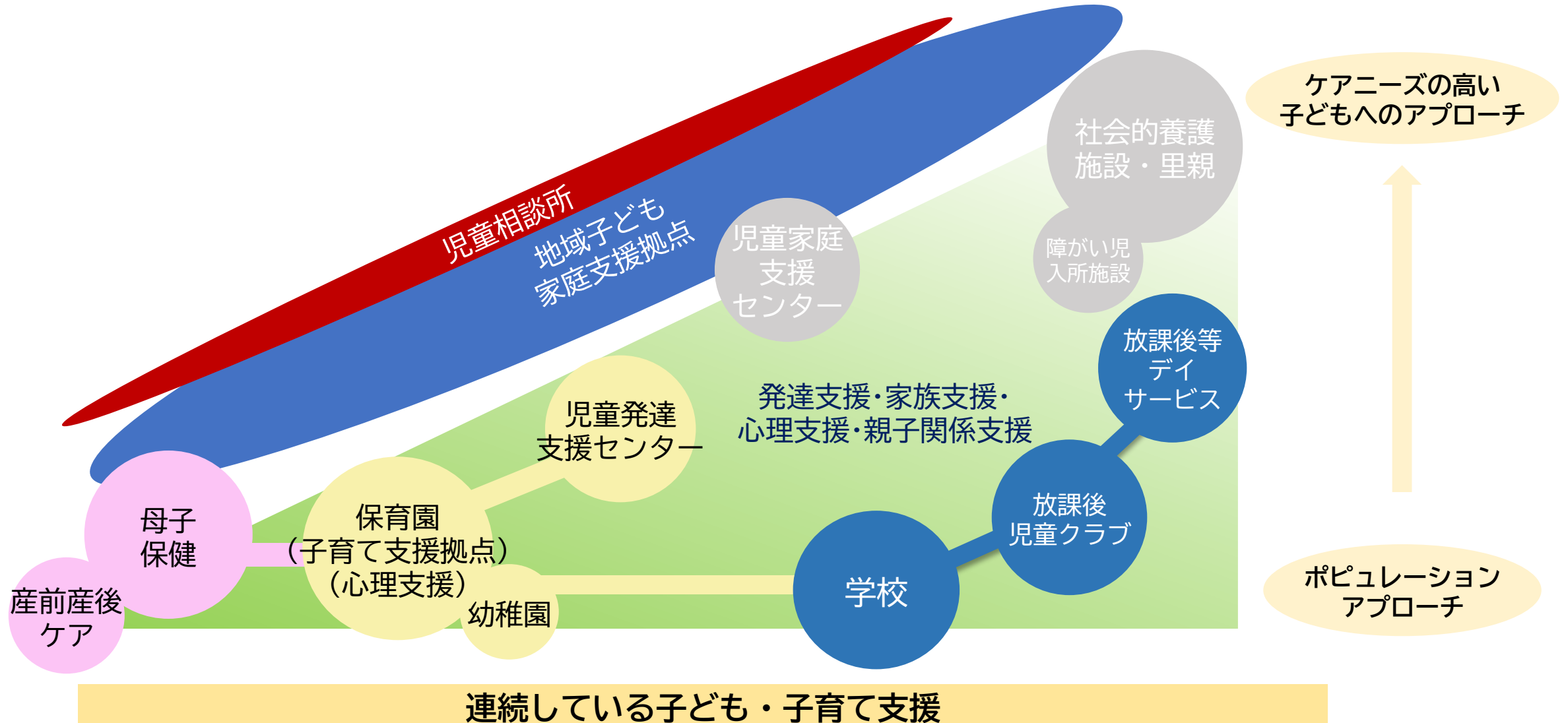
社会が全ての子どもと家族を温かくつつむ



ポピュレーションアプローチ

手厚い子育て支援・家族支援
—障害のある子ども・社会的養護の必要な家族への支援—

社会が地域の全ての子どもと家族を温かくつつむ

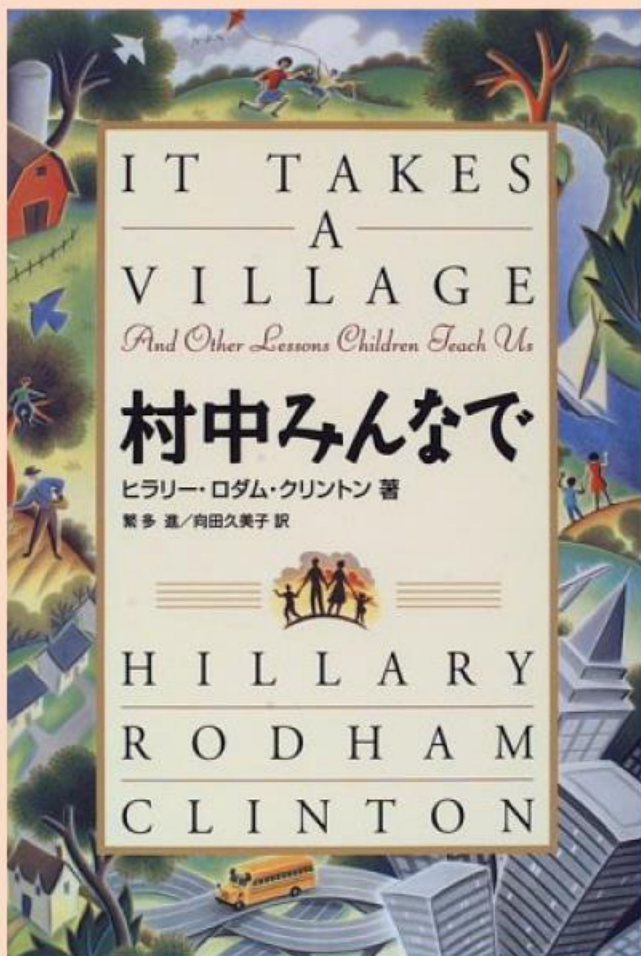


支援をうける側から
支援する側へ
癒された人が
癒し人へ

—子育ての循環—

子どもが大きくなって、
里親や他の子を育てる
部署で働く

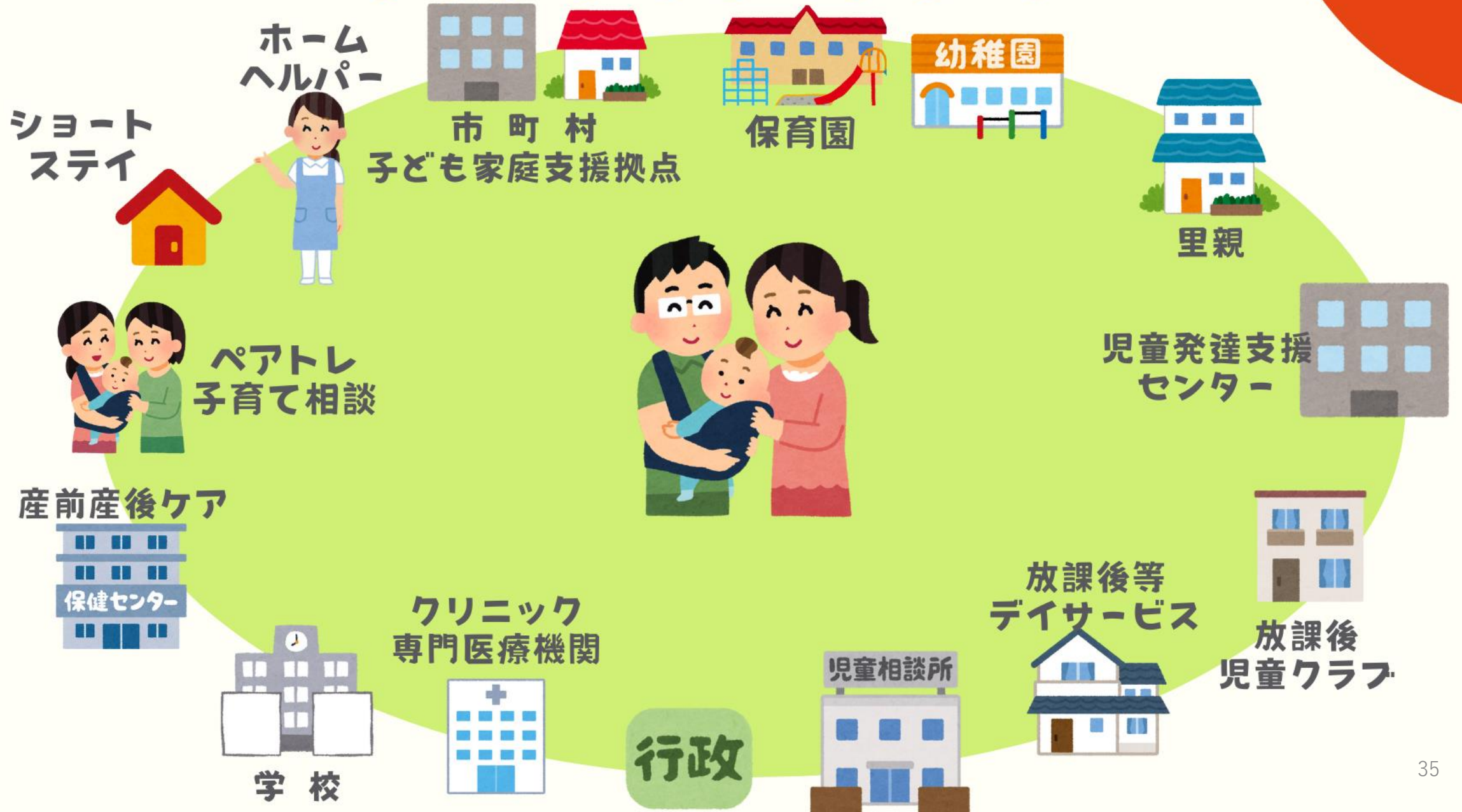




一人の子どもを育てるには、
村中の大人の知恵と力と愛が必要

ーアフリカのことわざー

子育てはみんなで



生まれてきてよかったと思える日々、この世は生きるのに
あたいすると思える多様性が尊重される社会のために



すべての子どもは社会の宝

子どもを育てるためには、
地域みんなでの力が必要。

子どものために一母子保健・保育・社会的養護施設・障害児関係者・医療・教育・行政みんなで**手をつないで！**

抱え込まない専門性（横堀）



自立に向けてーいつでも支えが必要

- 自立とは、依存先を増やすこと
- 希望とは、絶望を分かち合うこと

- S君とのエピソード

ご清聴ありがとうございました

